

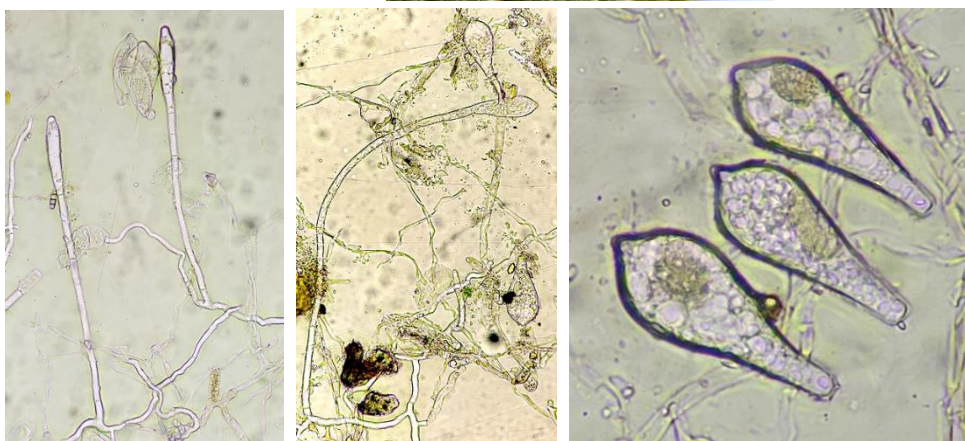
カキうどんこ病の春季症状・秋季症状



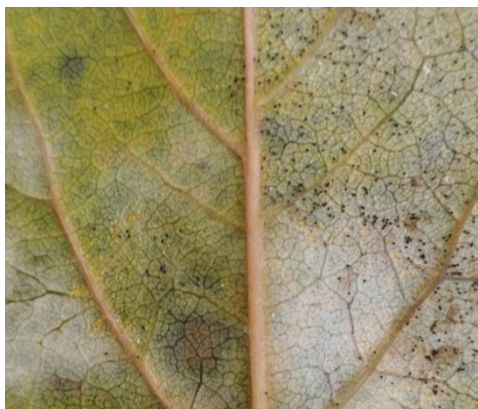
1. 春季黒点症状

春季には、うどんこ病らしい白粉や白変は肉眼的にはほとんど見られず、微小な黒点が集合した病斑となって表れます。春から初夏にかけて、初発時には白い「うどんこ症状」を呈していないので注意してください。

黒点病斑の葉裏にセロテープを押し当てて採取すると、形成途中の様々な段階の分生子を見ることができます。



分生子は、分生子柄の先端に 1 個だけ作られ、はじめ短棍棒状から次第に膨らみ、先端に乳頭状突起を有するラッキョウ型になります。楕円形や俵型が多いうどんこ病菌の分生子の中では、特異な形をしています。



2. 秋季白変症状

秋季には、葉裏は白くなります。分生子の形成数が少なく（分生子柄先端に 1 個だけ）、白色表生菌糸層に覆われていますので、白粉状というよりは、平滑に白変しています。晩秋には菌糸層の中に子のう殻が形成されて黒色小粒点として見えてきますが、その時には菌糸層は衰退、消失していきます。

葉裏にセロテープを押し当てて採取すると、白変部には表生菌糸層と分生子が、黒点部分には子のう殻が見られます。子のう殻の付属糸は針状で基部に特徴的な膨らみがあります。

